

第7回会員総会シンポジウム：学会員のメリットとは？一賞推薦と受賞報告

オーガナイザー：日本生物物理学会 理事会

日 時：9月17日（木）12:00～13:00

概 要：本学会の法人化（2014年）以降、これまで年会中に開催されていた会員総会の役割は、代議員による社員総会に移った。以後、会員総会では会長発案によるシンポジウムを開催することで、通常のシンポジウムとは異なる話題や課題を会員とともに考える場とすることとしている。学会の大きな役割と学会員のメリットの一つに、学会員の賞への推薦がある。受賞につながることは受賞者本人だけでなく、学会のプレゼンスを高める意味でもとても喜ばしいことである。普段あまり身近に感じることもないかも知れないが、今年度の年会では、2019年度に内藤記念科学振興賞を受賞された神取秀樹氏（名古屋工業大学）と、中谷賞大賞を受賞された野地博行氏（東京大学）に受賞記念講演をお願いした。両氏のお祝いの場となるとともに、後に続く学会員がでることを強く願っている【会長・原田慶恵、副会長（賞・助成金担当）・須藤雄気】。

講演者・プログラム：

1. 神取秀樹氏（名古屋工業大学）「光遺伝学ツールとしての新規ロドプシンの開発」
2. 野地博行氏（東京大学）「デジタルバイオ分析法」